

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	東海支部	(2) 記載者氏名:	堀 文昭	会員番号:	13301	事務局整理記入欄	東海 - 16
分水嶺区分	W012三村界(木祖、朝日、櫛川)~W011送電線(北)	(3) 山行日:	2004年	11月	26日	(4) 天候:	晴のち曇

(5) 参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

堀江召浩	12797			箕浦靖夫	8073		
堀 文昭	13301						
伊藤 武	13962						
計				計			
3名				1名			

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	鉢森山南東尾根が折れて真南に向きを変えるところから、約3km南下する。密ヤブの連続である。										
アプローチ:	前日:名古屋方面~塩尻市~小曾部川上流、下山後:塩沢~櫛川村奈良井~名古屋方面										
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E		緯度N		高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	度	分					
歩行開始点	上小曾部森林公園	贄川					1,180.0	6:15			
	からたきの峰	贄川					1,857.7	8:25	8:35	A-2	
分水嶺到達点W012	三村界	贄川					1,844.0	10:00	10:20	B-3	
	中間点	贄川					1,755.0	12:15	12:25	B-3	
分水嶺離別点W011	送電線(北)	贄川					1,590.0	14:15	14:35	B-3	(11)
歩行終了点	橋戸沢林道ゲート	贄川					1,100.0	15:30		A-2	
総歩行時間(休憩時間を除く):											7時間40分

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項	
	からたきの峰	橋戸	2	S	良好	分水嶺上ではない、塩尻市の最高峰

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

送電線は地形図通り、その他に人工物は見当たらないが大木の幹に食い込んで錆びたワイヤーロープが放置されているところから、かつては奪略的に伐採されたものと思われる。現在は疎らな林間に笹が蔓延るばかりだ。

(9) 水および植生に関連した特記事項

植生については2ページ目に記載する。 樹木は乏しいが山腹崩壊などの自然破壊は、稜線からは見られなかった。

(10) その他の特記事項

--

(11) 写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明: 送電鉄塔の位置から北、迎って来た稜線を振り返る

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。 この地域の山地は急峻で林道の造成は少なく、殆どは国有林で水源涵養林として管理されている。 中部地方の植生の垂直分布として700mから1500mの地帯にはトウヒ属のハリモミ、ヒメバラモミ、ツツジ属のミツバツツジ、ヤマツツジ、カバノキ属のシラカンバ、モミ属のウラジロモミ、ツガ属のツガ、1500mからの亜高山帯にはトウヒ属のトウヒ、イラモミ、マツ属のキタゴヨウ、チョウセンゴヨウ、カバノキ属のダケカンバ、モミ属のシラビソ、オオシラビソ、ツガ属のコメツガが一般的に見られるが、この辺りはほぼそれに近い植生である。 最も問題なのがネマガリダケ(チシマザサ)の猛烈な繁殖である。これが分水嶺踏査の最大の難敵であった。キタゴヨウやシラビソ、コメツガの大木をとりまくように密生し、それらの稚木は林床にみられない。このまま放置すれば一帯がササ山になってしまうのではないかと危機感をおぼえる。

文献によれば、チシマザサはサハリンから北海道、東北、裏日本各県で標高700m以上の多雪地方に多く、積雪50cmで優先する(地下茎の深さが浅いので無雪地では低温害を受けやすいが、平均最深積雪量50cm線で積雪の保温効果を受ける)。
地下茎の芽子数に比してササとなる割合は数%に過ぎないが、二年目から稈の上部で枝を分岐するので株立ち状になる(このため密生地では胸高位置でより立て込んで歩行の抵抗が強い)

いずれにしてもササは我国林業の大きな障害物になっている。ササの生える場所と生えない場所にどのような立地的、土壌的違いがあるか、現在の植物学の世界でもほとんど判っていないらしい。
ササの生地は火山灰土におおわれた箇所で、火山灰が洗い流された地域にはササの群落はできていないともいわれているが。

6月に、白色でやや赤みを帯びた柔らかい美味なタケノコが採れるとか、熊の冬眠明けの主食になるなどと云っておれない。
森林破壊の元凶になるのではと心配せざるを得ない状態である。(このページは 堀江召浩 記)



送電鉄塔の位置から北、迎って来た稜線を振返る